

編集後記

AI (人工知能) の飛躍的な進歩と急速な実用化が注目される昨今です。

確かに AI のおかげで、近頃の天気予報の精度は大いに高まったようで、これは私たちにとって、身近な恩恵のひとつと言えるのでしょうか。

しかし一方で、プロ棋士が AI にまたまた負けちゃったなどという話題を耳にすると、AI の優秀さに感心すると同時に、ふと空恐ろしさも覚えたりしないでしょうか。あるいはネット上で、ビッグデータとディープラーニングを駆使した AI が、個人に向けて特定の商品の購買を勧めたり広告を表示したりという、日常へのいつのまにかの AI の侵入も、なんだかちょっと不気味です。

AI を特集したテレビ番組も最近増えてきました。それらを見ていても、やはり考えさせられる時があります。そこでは、医療や防犯などさまざまな現場への AI の導入が紹介されています。

たとえば欧米では、手術の可否や移植する患者の優先順位を AI に委ねる病院もあるそうです。この患者はこの手術をするとあと何年生きられるか——それを AI に予測させる。その結果、「無駄な手術をしない」という、医療の効率化は図られますが、「長く生きられなくてもいいから手術をしたい。なぜなら今のままでは辛くて耐えられないから」という患者自身の心情は聞き入れられません。

また、犯罪多発都市シカゴでは、警察が AI によって犯罪の起こりそうなエリアや起こしそうな人物を特定する試みが行われているとか。効果はてきめんで確かに犯罪発生率は低下したそうですが、一方で冤罪的な被害も起きているようです。なにしろ AI は、少なくとも今の技術では、犯罪に関わる可能性が高い人物を割り出すことはできても、その人が加害者になるのか被害者になるのか、その肝心なところを判断できないのだとか。怖いですね。

……と、ここまでこの貴重な『浜太極』編集後記

の紙面を、太極拳とはおよそ関係なさそうな話題で汚すとは何事か、けしからん！——とお思いの方もいらっしゃるかもしれません。

ですが私は、ここで唐突に「ああ、だから、自分には太極拳があって良かった」と書くのです。

2045 年頃には、ついに AI が人間の知能を超えると言く学者もいるそうです。その時を「シンギュラリティ」(技術的特異点)と呼ぶとか。そんな未来に向かって生きている私たちが決して AI に奪われないもの、それが私たちの太極拳の中に秘められていると考える私は、妄想が過ぎるでしょうか？

「だが、しかし」と私は言いたい(笑)。AI が人間を超えられないもの、それは何かといえば、私たちが太極拳によって日々磨いている「体性感覚」ではないでしょうか。どんなに膨大なデータを超高速・超深〜 AI が解析できたとしても、この私たち個人の中に宿る体性感覚は AI には理解できないのでは？——そう思う私はもしかしたらノー天気なのかもしれません。でも時にはそんな思いに耽りながら、悦に入って太極拳を舞うのも悪くないのではないかと思うのですが……。

とまあ、「AI と太極拳」などという突飛なテーマを編集後記で取り上げまして、恐縮です。ですが皆さま、どうかこの拙文をいわば投稿の一例と捉えていただければ幸いです。

『浜太極』では、日々の皆さまの素晴らしい太極拳の活動報告はもとより、太極拳を通して感じたこと、考えたこと、そんなことも含めて、自由で生き生きとしたご寄稿をお待ちしています。(結城 記)

【投稿先】

●メール k.hiroko@aurora.ocn.ne.jp

●郵 送 〒 252-0239 相模原市中央区由野台 2-7-3

●FAX 042 - 758 - 9838

※宛名はすべて『『浜太極』編集部』でお願いします。支部ホームページのほうもお開き下さいますよう、よろしく……。

神奈川県支部ホームページ : <http://www.taiji-kana.sakura.ne.jp>